

世は真似できない感謝(I テサロニケ 5:16-18)

神様の願いは人が救われることです。神様は人をさばかれる方ではなくて、罪によって滅びるしかない人を救われる愛の救いの神様です。そして、それは飢え渴いたたましいを先に救われた信者に会わせて、信者を通して福音を聞かせることでその救いの働きをなしていらっしやいます。なので当然、信者の私たちに救いに定められている飢え渴いているたましいが起こされることは当たり前なことで、奇跡ではなくて普通のことにならないといけないものなのです。なのに実際は信者にそのような出会いがなかなか見られないということが正直な現実ではないのでしょうか。また、そのような出会いがあったとしても、すぐに人が自分から離れてしまうようになります。それはなぜなのでしょうかと質問を持ってメッセージを聞きたいと思います。

今日の聖書を見ますと、いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。また、すべてのことに感謝しなさいと言われていています。すべてのことに本当に感謝できるかと思ついてもいいかもしれません。そのような思いがあるので、当たり前には飢え渴いている救われるべきたましいが起こされるはずなのになかなかその答えとは縁のない人生を送っているわけです。いろいろな理由があるでしょうが、結局、信者なのに世の人は真似できない、世の人々には見ることができない信者だけにある感謝、その感謝がないからなかなかたましいが起こされないし、人との出会いが許されたとしてもその人がそばにいられなくて離れていくのです。そのことを覚えて、ぜひこの感謝を正しく回復する感謝礼拝になりたいと思います。他の言葉で申し上げますと、信者の自分の中に感謝のやぐらが立っていないからです。ある信者は、「先生は私の家庭の事情がよく分かっていないから。うちの子どもをよくご存じないので感謝、感謝とおっしゃってるかもしれませんが」「いま会社でどんなに大変な目に遭っているのか」「私の体の調子がどれほどきついのか」ということ知らないから感謝の言葉をよく語られるのかもしれませんが」と思う人はいるかもしれません。信者なのにいつまで経ってもそのような感謝のレベルにとどまっているので勝利できないどころか、いちばん大切な、いちばん当たり前な福音宣教の働きになかなか用いられることのない人生を歩くようになってしまいます。ぜひ今日の礼拝を通して、皆さんの内側に世の人は真似できない感謝を回復して、それが流されないようにやぐらとしてしっかり立つことを祈りたいと思います。

信者の感謝はどのような感謝なのでしょう。なぜその感謝が世の人々とは違う感謝、真似できない感謝、次元が全く違う感謝と言えるのでしょうか。

1. 信者は変わらない救いの恵みを感謝する。

第一に、信者は何があっても変わらない救いの恵みを感謝します。

未信者にはこの感謝は絶対不可能なのです。救いの恵みを感謝するということは、私たちも知らないでいたでしょうけれども、私たちは滅びの運命に囚われてサタンの奴隷でした。

1) 変わらない完全なる解放

そこから完全に解放されることを救いと言います。それを感謝します。何があってもまず先に優先してこれを感謝する人が信者です。そのときに目に見えない暗闇の力が砕かれていくようになります。特にこの解放された祝福ということは変わらない解放です。何があっても変わらない完全なる解放の祝福を感謝する人が信者です。

①絶対解決不可能な霊的根本

私たちは自分で気づいていないでしょうが、自分の力、世の何かでは絶対解決不可能な霊的な問題を抱え

ていました。

②エペソ 2:1-3, ヨハネ 8:44, マタイ 11:28, 使徒 8:4-8, ルカ 16:19-31, ヘブル 9:27, I コリント 10:20
聖書には私たちのたましいが死んでいたと言われていました。たましいが死んだということは、いのちの根源である創造主の神様を離れたということであり、裏返しますとサタンに隷属になってサタンが支配しているという意味なのです。結果、サタンが作り上げた世の流れに従って、その人の考え、精神が宗教や偶像を求めるしかない、それで滅びに向かって進むしかない状態でした。これが誰かに学んでやることとか、自分の悪い良いと全く関係なく、生まれながら神の御怒りを受けるべき子らとして生まれたわけです。これが私たちの実態なのです。人間の実態です。誰も分かっていないし、誰も教えてくれないものなのです。ここから解放されるわけです。なので、実は私たちは身分そのものが、あなたがたは、あなたがたの父である悪魔が出たものであると言われる、悪魔の子という身分として生まれるので、その人の心と精神に安らぎなどは期待できません。いつも精神的に不安で、そして疲れてしまうようになってしまいます。なぜ精神的におかしくなるのか、きついのかと言いますと、そのようなことがあるからではなくて、身分そのものが悪魔の子なのでそうならざるをえません。そのような状態が体も蝕むようになり、体のさまざまな病気を起こして、そして自分なりに人生を一生懸命頑張るつもりなのに、結局はむなしい人生に終わるようになります。それからどうなるのか。ヘブル 9:27 には、人間には一度死ぬことと死後にはさばきを受けることが定まっていると。死の恐怖に囚われて、人生終わると永遠の刑罰の方に入れられる運命を抱えて人生を生きているわけです。だから幸せなどは夢の夢なのです。みな願っているにもかかわらず叶えられません。それからなぜなのかが分かっていないので、いつまで経っても誰かのせい、何かのせい、自分のせいということに捕らえられて、傷だらけの人生を送るしかありません。そして、これが自分が死んで終わればよいでしょうが、終わることなく子孫たちに遺産として受け継がれて、この滅びの運命をずっと続くようになります。このような問題が、皆さんが何をどうしたかと全く関係なく、生まれながら抱えている問題です。皆さんが悪いことをしたから人生がこうなる、良いことをしたから人生はこうなるということはずっと後の話で、それと皆さんの人格と学歴と品性、人柄などと全く関係なく皆さんにやってきた問題です。だから解決できません。努力しても解決できません。宗教を求めても解決できません。それを霊的な問題、悪魔のしわざというわけです。だから神様は私たちの問題に対して何一つ解決しなさいとかおっしゃらずに、最初から神様ご自身が解決なさると約束されました。

③創世記 3:15, 出エジプト 3:18, イザヤ 7:14

女の子孫が生まれて、蛇の頭を踏み砕く、悪魔の頭を踏み砕いて勝利なさらない限り、私たちの問題は解決になりません。誰かのせいではありません。皆さんが悪いからでもありません。皆さんがこれをあましたから、親のせいでもありません。悪魔のしわざなのです。だから悪魔の頭が踏み砕かれない限りは希望などありません。そして、それをキリストと言います。なぜそうってしまったのか。私たちが罪を犯したからです。その罪は罪のないキリストが代りに死ぬことその他には希望はありません。それが約束されました。それで私たちがいちばん最初、神様によって造られたそのかたちに戻ることに、神様と出会い、一緒になることその他には希望がありません。神様と出会わない限りはいくら頑張ってもむなしい人生から解放されることはできません。神様がキリストを通して悪魔の頭を踏み砕いて、私たちの罪を完璧に贖い、神様と会うことができるいのちを与えられることを約束されました。神様がキリストを通してすべて解決されると約束されました。

④ヨハネ 19:30, ローマ 8:1-2

そして、その約束通りにキリストが世に來られて、十字架の上ですべてを完了したと宣言されました。悪魔の頭を踏み砕いて罪を贖い、いのちの働きを完璧に完了なさったと宣言されました。なので、私たちがこの滅びの運命から解放されることは、私たちの何かと全く関係なく、代わりにすべてをなさったキリスト・イエスを信じることによって解放されます。ローマ 8:1-2、キリスト・イエスにあって、いのちの御霊の原理が死と罪の原理からあなたがたを解放したと。完璧に完全に解放されます。私を信じる者は、さ

ばきに会うことなく、死からいのちに移っているのです。70%ぐらい解放されて、30%ぐらいは少し残っていて、それをこれからどうにかしないといけない、そういう救いではありません。キリストがすべてを完了なさったので。皆さんの人格と学歴と、皆さん行いと頑張ったのか頑張っていないのか、よくやったのか悪かったのかなどと全く関係なく、このイエス・キリストを信じることで、受け入れることで、私たちの運命は変わります。死の運命から解放されます。今ここにこの救いに私たちの何かということとは1mmも入る余地がありません。だから変わらない救いなのです。皆さんがイエス様を信じてから失敗をしました。悪いことをしました。それを合理化するつもりも進めるつもりもありませんが、それによってこの救いが変わるわけではありません。なぜかというと、皆さんが良い子だったから与えられたものではなくて、皆さんのどうのこうのと全く関係なく神様から与えられました。一方的な恵みなのです。この救いを永遠に変わらない完全なる解放を感謝しましょう。何がどう変わろうが、何がどうなるかと全く関係なく与えられた救いなので、それに振り回されることなく感謝できるものなのです。死の影の谷を歩くときもこの救いは変わることはありません。皆さんが落ち込んでる時にもこの救いは変わることがありません。皆さんの弱さにゆえに自分で悩んでいるでしょうが、それは自分の都合であって、その時もキリストによるこの救いは変わることがありません。たとえ皆さんが何かのことで犯罪を犯したとしましょう。その時もこの救いは変わることがありません。皆さんが犯罪などを犯すことがない、ものすごい純粋な人間だから救われたわけではないので、この部分が明確にならないので感謝ができないのです。感謝したりしなかったり。都合によって感謝がコロコロ変わるような、それでは悪霊は離れることなどありません。

2) 変わらない完全なるいのち

解放されただけではありません。キリストによって救われたということは変わらない完全なるいのちが与えられたことです。これを感謝します。

① I ヨハネ 5:11-12, I コリント 3:16, ローマ 8:15, II コリント 5:17

I ヨハネ 5:11-12 を見ますと、御子イエス・キリストの中にいのちがあり、御子のある者はいのちがあり、御子のない者はいのちがない。御子イエス・キリストを受け入れたことで、その人のからだはそのままであるのに、その人の内側にいのちが宿ることになります。つまり、いのちが宿るといのは、神様を離れて悪魔が支配していたその人生、その人間が悪魔から解放されて元通りに神様ご自身がその人の中に宿ることになります。三位一体の神様が。それで I コリント 3:16 にはこう書いてあります。救われた人に対して、あなたがたは聖霊が宿っている神の神殿であることが分かっているのか。もう一度言います。皆さんが頑張ったから、良い人間になるために悔い改めたから、修行したから、心を入れ替えたからこのようになったわけではありません。私たちがまだ罪人であったときに、イエス・キリストが代わりに十字架で死なれることでこのいのちが与えられ、いのちは完全なるものであり、また変わることがありません。このようになりました。これを感謝するわけです。だから世の人は絶対真似できません。あなたがたには滅びる霊ではなくて、子としてくださる霊をいただいているので、神様を「アバ、父」と呼ぶことができる。お父さんと呼びなさいと言われるからではなくて、救われた者はいのちあるから神様のことを父と呼ぶことができるようになります。創造主の神様が私の父であり、私はその神の子どもなのです。それがいのちなのです。なぜ神の子どもでしょうか。性格が悪い人間が教会に通って良い性格に変わった。だから神の子どもなんだなあ。ありうることでしょうけれども、神の子どもの証拠はそれではありません。まだ性格もめちゃくちゃで、教会に通いながらも何も変わっていないし、礼拝の時に居眠りばかりしていても、イエス様を信じている者はイエスの霊が内側にいらっしゃるから、私の外の何かと関係なく神の子どもなのです。それがいのちです。そしてそれは変わりません。皆さんが私はイエス様など絶対信じません。信じるもんかよと言わない限り。いくら失敗して、いくら直らない習慣があっても、いくら精神的な問題を抱えていたとしても、いのちあることは変わることがありません。だから変わらないものにフォーカスを合わせないといけません。コロコロ変わるもの、うわべ、目に見えるものに振り回される人生は終わりにしないといけません。こういうことで II コリント 5:17、そういう意味でパウロはこのように言いました。誰でも、誰でもです。キリスト・イエスのうちにあるものは、古いものは過ぎ去ってすべ

てが新しくなった。なかなか自分のことを見て、そのように思いきり宣言できないでしょう。なぜなのでしょう。今まで通りの評価の基準に振り回されてるからなのです。救いは、世の中のどのような基準にも当てはまりません。神の恵みなのです。

3) 宗教的基準から自由に-エペソ 2:8

エペソ 2:8には、あなたがたは、恵みのゆえに信仰によって救われた。これは神の賜物であり、あなたがたから出たものではなくて、神様から与えられたものだよとおっしゃっているのです。だから変わらないのです。完全なる救いです。皆さんのどうのこうのによってこの救いを疑ったり、この救いを喜んだりすることを躊躇したりすることは悪魔のしわざです。良心的な人間でなくて、霊的に騙されているところなのです。だから世の中の道徳や宗教的な基準から見たときには、ずうずうしいなあと思われるのが当たり前です。彼らは知らないから。人間が1ミリも動けない絶対解決不可能な滅びの人間だということを誰も知らないし、認めようとしないので、彼らの基準から見た時にはいつまで経っても人間の行いが基準なのです。皆さんの行いでどこまで自慢できて、どこまで威張ることができるのでしょうか。クリスチャンでありながらも。私はこの悪い部分があるけれども、その他はまあまあいけるかもしれませんと思っているかもしれません。それが宗教的な判断です。ついうわべが違う他の人と比較したり、見下したり、あるいは羨ましいなと思ってたりするでしょう。それが宗教なのです。そういうことができないように、あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出たものであり、生まれながら神の御怒りを受けるべき子らとして生まれたことをクリスチャンなのに認めないのです。それは刑務所にいる人間の話であって、私は悪いところありますよ。でも、良いところもいっぱいありますよと、それは福音ではありません。だから、いのちが、福音が私のものにならない。24時間、いつでもキリストしか見えないようにならないといけないうちに、キリストが見えないのです。私に良いところところ、頑張れるところがあれば、そこはキリストは要らないのです。あの人はこれが悪くてというのは、私はその部分で良いということでしょう。この間、テレビでものすごい凶悪な犯罪者が捕まったというニュースがありました。それで昔は、ああいうことができるかと思っていたのですが、今見ると、あれは私だ。私も同じ人間だろう。だからあの刑務所に行くあの人もキリストが必要なんだ。何が他の人より偉いのでしょうか。誰をさばいて批判することができるのでしょうか。人間のことが分かっていないからでしょう。皆さんが誰かを批判したり、誰かにつまずいたり、心配したりしていることは、普通理屈的に当たり前かもしれませんが、その瞬間はキリストが飛んで行って、皆さんの心と考えを悪霊に操られているところなんだということを忘れてはいけません。戦わないといけません。皆さんの考えを悪霊に許してはいけません。戦ってください。キリストが見えないようになるのは、すべて悪霊がその人の考えを操ることなのです。信者はこの素晴らしい救い、しかも変わらないので、いつも喜んで感謝します。皆さんのどうのこうのと全く関係ない救いです。皆さんの問題も皆さんが悪いことをしでかす以前に皆さんと関係なく、皆さんに与えられたということを認めないといけません。それが霊的な問題です。それを原罪と言います。なので救いも皆さんのどうのこうのと関係なく、キリストによって成し遂げられて与えられたものなのです。だから24時間キリストを見上げるようにならないといけません。キリストにあって皆さんは完全に解除され、完全なるいのちを与えられている新しい被造物、神の子ども、幸いな者、いのちがある祝福の存在に間違いありません。なのに、主の御前に召されるまで私たちには古い人が残って、その祝福を邪魔するわけです。しかもそれも問題になりません。そこに神様の癒しの働きがなされるわけです。

2. 信者は神様の癒しを感謝する。

だから信者は二番目、神様の癒しの働きを心から感謝する人です。

キリストを受け入れたその救いは完全完璧なのです。皆さんが何がどうであろうが、周りがどう変わろうが、状況がどう変わろうが感謝できる、変わらない祝福だということを忘れてはいけません。だからそれで終わりかと言いますと、そうではなくて癒しが求められるのです。

1) 古い人を脱ぎ捨てるように(サタンのやぐら-考え)

そのような完璧な救いなのに、古い人が残っていて、神様はその古い人を脱ぎ捨てるように癒しの働きをなさいます。その古い人とは、サタンのやぐらとも言います。特に先ほども申し上げましたように、私たちのたましいは救われたのに、考えが変わっていないのです。その考えそのものが古い人を被っているわけです。考えが癒されること、これが信者の祝福です。信者に約束されている神の祝福なのです。神様は今も救われた私たちを癒していらっしゃいます。癒されるところがあるからといって救いに足りないところがあるという意味ではありません。救いは完璧なのです。神様のさまざまな理由があつて、古い人が残っているのです。特に考え方の中に。それを神様は癒されます。

①以前の刻印 ②宗教、律法、道徳、傷 ③自分、金、成功

キリスト以前の救われる以前の刻印というものが、特に宗教的なもの、律法によるもの、是々非々などに左右される刻印、道徳による刻印、心の傷などによる刻印、そういうもので物事を見て判断して動くようになります。救われたにもかかわらず、いのちあるにもかかわらず。だからと言って救いが取り消されることはありません。でも、見事に悪霊に騙されることになります。そして救われる以前の心の刻印、自分中心、お金が中心であり、世の成功が中心である、その刻印のまま物事を見て、お祈りもそれに従って、誰かを判断するときにも、自分の人生の目的を考えるとときにも全部が、そういう刻印によってその人の考えが動かされるようになるわけです。

2) 新しい人を着るように(神のやぐら)

①Onlyの人に(キリスト、神の国、聖霊)

②神のやぐら-証人

③人、問題、事件等を通して

それを脱ぎ捨てるように神様は癒しの働きをなさって、新しい人を着るように癒しの働きをなさいます。新しい人がキリストであり、それを神のやぐらと言います。新しい人を着るとはどういうことなのでしょう。古い以前の刻印を捨てて、Onlyの人になることです。そのように神様を癒されます。Onlyの人。善良な人ではなくて、心優しい人間ではなくてOnlyの人。キリストOnly。先ほども申し上げましたように、誰かが良い悪いではなくて、キリストが見えないといけません。キリストが答えとしてOnlyになるように。そして目に見える何かによって判断したり評価したりではなくて、目に見えない霊の世界を中心にして、それがOnly神の国なのです。目に見えるものに振り回されません。そして、状況や環境などに左右されないで、聖霊の力によって。それが聖霊Onlyです。Onlyになると、躓くこともなく言い訳などありません。過去に引っかかることなどはとっくに乗り越えて、過去のすべてのつらいこと、いちばん悲しいことが感謝に変わります。それがOnlyです。キリストしか見えません。昔、悲しかったことが見えるのではなくて、キリストが見えるのです。いま目の前に紅海が見えたり、砂漠が見えるのではなくて、神の国が見えるわけです。Onlyです。自分自身の弱さがあり、環境がどうのこうの、条件がああだこうだではなくて、聖霊の力が見えるわけです。Onlyの人として神様は私たちを癒されます。なぜなかなかOnlyにならないのか。古い刻印のままなのです。皆さんが、皆さんに害を与える誰かを見たときに、どのように反応するのでしょうか。当たり前で理屈にあった反応でしょう。ええ、ありえない。もちろんそうでしょう。でもありえないと判断するその判断の基準は何なのでしょう。律法でしょう。たとえ牧師がここで皆さんには想像できない本当に変なことをしでかした。それを見てつまずいて試みに会うということがしょうがないと思うでしょう。こちらを合理化するつもりはありません。しかし、いくら大変な問題であっても、つまずくことはその人の心の内側に律法が刻印されているからです。キリストの福音の目で見るとではなくて。だから神様は私たちは良い信仰者、メッセージを聞いて聖書もたくさん読んで、ちゃんと礼拝を守って真面目な信仰者だと思っているでしょうけれども、人を通して何かの問題や事件などを通して、自分を省みるように働きます。その時にその反応を見て、自分がキリスト・イエスと言いながらも、実際は自分の内側に何が刻印されて、何をメインにして私は動かされているのか体験するのでしょうか。だから、例えば、その人の失敗を通して同じなのです。失敗が問題ではありません。どんな陰

しい競合があっても、それは問題ではありません。その前で皆さんがどのように反応するのか、それを見てみてください。それに溺れて大変だと溺れていないで。なるほど、イエスはキリスト。私は主のためにといいながらも、実際問題の前で私に刻印されているものは律法なのだな。道徳なんだな。自分中心なんだなということに気づいて、それで Only キリスト、Only 神の国、Only 聖霊に自分を変えて整えていく。それで自分の霊的状态が改善されていくように、神様は私たちに変な人に会わせて、いろんな問題を起こして、いろんな事件に遭わせることで、癒しの働きをしていらっしゃいます。なので、これを感謝する人はすべてに感謝して、癒しにフォーカスを合わせて、癒しをポイントにして物事を評価するわけです。だから感謝なのです。変な人間に会ってつぶやくのではなくて、癒しにポイントがあれば、あれを通して私を癒していらっしゃるんだねとなります。皆さんには悲しいことかもしれません。あれを通して本当の悲しみが何かを私に気づいてもらうように癒しの働きをしていらっしゃるのです。だからすべてに感謝します。それがすべてのことに感謝という意味なのです。神様は今も信者の私たちに癒しの働きをしていらっしゃいます。なのに自分なりの頑固を持っていれば、なかなかこの癒しの祝福に預かろうとしません。聖書が何を言っている、自分の主張は自分の主張。だから神様はこのように癒される理由は、Only の人にして何も問題がない、何も問題にしない、何も問題に引っかからない、そういう人に作り変えていらっしゃるのです。それを癒やしと言います。別の言葉で神のやぐらが立つようになります。目的はそういうふうにして私たちを他の人を救うための証人にするためです。癒しの目的はそこにあるわけです。

3) ピリピ 1:4

あなたがたに良いことを始められた方が、キリスト・イエスの日にまで完成させてくださる。神様は私たちが救われたのに内側から変わっていない。それで変な失敗を繰り返している。習慣が直らない。性格も直らない。あれがクリスチャンなのか。救われたと言えるのかというようなことがあるにもかかわらず、私たちを見捨てることなく、放ったらかしにしないで、私たちの中に入って内側から整えて癒しの働きをしていらっしゃる神様なので、神様に感謝を捧げます。これが未信者にはない感謝です。未信者は、大学に合格すれば感謝。落ちればうーわー。そういうレベルでの感謝はクリスチャンには役に立ちません。皆さんにどういうことがあるのでしょうか。どんなに嫌なつらい思いで礼拝に来られたのでしょうか。それを感謝しないとイケません。なぜそんなに気持ち悪い、なぜそんなにいらいらしているのでしょうか。皆さんの内側に違うやぐらが立っているからです。でしょ？。それをさばく意味ではありません。気づいてもらって、ああ、だからいまもキリストが必要なんだ。聖霊の力が求められるんだ。このようにして神様は地上にいる間、私たちを証人とする。目的はそれです。

3. 信者はこの世を生かせる権威を感謝する。

それで最後の感謝は、信者は証人、伝道者として召されてその道を歩く者なので、この世を生かすことができる権威が与えられます。それを感謝します。

生かす答えを持っています。

1) マタイ 5:13-14

そういう意味で、あなたがたは世の光であり、世の塩です。格好つけるための名称ではなくて暗闇の世に光を照らすことができる。

2) マルコ 3:13-15

弟子たちを呼び寄せて、あなたがたとともにいるために福音を宣べさせて悪霊を追い出す権威を授けるために召されました。なぜならその権威がないと、悪霊に取り憑かれている人々を助けることはできないからです。

3) ルカ 10:19

蛇とサソリを踏みつける権威が信者の私たちに与えられています。

4) ヨハネ 17:18

イエス様が最後の晩餐の時にお祈りを捧げました。「父なる神様。あなたがわたしをこの世に遣わしたように、私も彼らをこの世に遣わします」。そこにはキリスト・イエスに与えられた権威が彼らにも与えられます。そういう意味なのです。何も持たずに、ただこの世を生かしなさいとおっしゃる方ではありません。天と地のすべての権威を持っていらっしゃるイエス様が、世の終わりまでいつもともにおられる。その権威を授けて、悪霊に取り憑かれている人々を助けるように私たちに現場に遣わされます。

5) 使徒 1:7-8

それでイエス様が最後におっしゃいました。それはあなたがたは知らなくてもいいよ。聖霊が臨まれると力を得て、エルサレムから地の果てにまでイエスの証人となる。信者、誰にでもこの権威が許されています。

6) 使徒 3:6

それが明らかに証明されたのが、美しの門の前で施しを求めていた生まれながら足のきかない人に向かってペテロが話したことです。ペテロは漁師出身で無学な人です。しかし、イエス・キリストを信じて変わらない救いの祝福に預り、癒しの祝福に預かることで証人となりました。もはや私ではなくて私の中にキリストが生きていて、それでその人に向かって「金銀は私にはない。私にあるものをあなたにあげよう。ナザレ、イエス・キリストの名によって歩きなさい」と。暗闇に囚われている、悪霊に悩まされている人々に対して、なぜ幸せがないのか、なぜ家庭がぐちゃぐちゃなのか、なぜ自分にはこういう習慣が直らないのか、なぜ麻薬に手を出すのかと悩んでいる人々に、正確な答えを与えることができる権威が皆さんにあります。皆さんの内側にいらっしゃるいのちのイエス・キリストが答えです。皆さんのどうのこうのと関係ありません。のどが渇いている者に対して、子どもだから水をあげるのは難しい。大人だから水をあげることはやりやすい。ではないでしょう。水をもっていけばあげられるのです。ただそのときに今まで申し上げました内容の感謝がないまま、古きやぐらや刻印に囚われていると、これはできるかできないか躊躇したり、いろいろ迷ったりするでしょう。それが律法なのです。別に私がどうしても伝道だけすればいいという意味ではありません。癒されますよ。しかし、皆さんのどうのこうのと関係なく、私にあるものをあげよう。皆さんの内側に彼らに必要な絶対必要ないのちのイエスがいらっしゃるから、それをあげるということは皆さんの人格とも関係ありません。学歴とも関係ありません。ただあげることができるのです。神様、昨日本当に申し訳ないことをしました。けれどもあげます。それとあげることとは関係ありません。そういう権威が私たちにあります。

なので今日、初穂の感謝礼拝を通して、肉的感謝の水準を超えないといけません。よくよく考えてみてください。皆さん、何で感謝して、何でそんなにつぶやいているのでしょうか。だから人が来ないのです。つまり、今の言葉で申し上げると、くりクリスチャンなのに、当たり前プラットフォームになるしかない存在なのに、プラットフォームになっていないのです。プラットフォームになっていないと人は来ないのです。来たとしても「え、違うな」とまた離れるのです。タラップンをやっつけて、人が何かを求めて来て、でもその人は福音によって編集されていない。本当の感謝がないので、人を見る目もこの人にちょっと何かあれば、福音の言葉ではなくて、自分の言葉が出ちゃったりして、その人がまた離れていきます。正しいかどうかなどはここに来る人とは関係ありません。飢え渇いているのです。いのちが必要なのです。なので、自分自身と自分の人生に救いによって本当に感謝しているのかと自分自身に問いかけて吟味してみましょう。まず自分のこと、自分の人生、感謝してますか。いつまで経っても自分のことを暗い目で、否定的な目で見ていらっしゃるのでしょうか。その理由は何でしょうか。それが本当に暗く思えない材料なのではないでしょうか。まだまだ絶対不可能な霊的な問題と自分とを結びつけていないのではないで

しょうか。何がそんなに引っかかるのでしょうか。悪魔の奴隷になっていたということを認めないと、他の全部が問題として取り上げられるのです。問題が見えるということは本当の問題を見ていないということであり、問題が浮かび上がるということはキリストが沈んじゃうということなのです。自分なりに正しく良心的に問題を取り上げているつもりかもしれませんが、クリスチャンにとって問題が浮かび上がるということは失敗なのです。それは裏返しますと、キリストが沈んでしまうことなのです。Only キリストです。なぜでしょうか。ほんとうの問題が何か分かっているからです。でもここが悪魔のしわざなのです。クリスチャンなのにほんとうの問題を見ることができないように、ほんとうの問題を自分と結び付けてアメンと屈服しないように、これが問題、あれが問題、これでよかった、これが悪かったと見させます。いまだに他の人を見るときにもこれで良かった、悪かった、あの人はこうだ、ああだ…。いつキリストが出るのでしょうか。キリストが出ないというのは、裏返しますと、認めてください。悪霊なのです。悪霊は変なお化けのように現われるものではなくて、私たちの考えの中にキリストを消すわけです。道徳を取り上げて。是々非々を取り上げて。人格を取り上げて。その人の悪さを取り上げて。その人の大きな過ちを取り上げて、キリストを消すわけです。タラップンの中でもそういうことはいろいろあるので、皆さんもしかして噂を耳にしたとしても全部カットするように。あれは分かっていることなのです。

それで自分と自分の人生に対して感謝してるのか、そうでないのかを問いかけて、もし感謝してるとすれば、なぜ感謝しているのか感謝の理由は何なのかということまで吟味して伝道者として整えられる最高の一週間になることを祈りたいと思います。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。朝起きて寝る時の夢の中でも感謝するしかない、また感謝の他に何もない救いの祝福に預かりました。クリスチャンなのに見事に古い人に、また以前の刻印に騙されて感謝を逃してしまうことが多々あります。どうか神様、今日のメッセージを通して無条件、感謝することができるように。そしてすべてのことに癒しをポイントにして感謝することができるように。信徒ひとりひとりを祝福してください。それで神様が飢え渴いているたましいを起こしてくださるしかない弟子としてひとりひとりが整えられるように。癒しの祝福を内側から豊かに与えてください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アメン。